

明石市

国際協力海外レポート

栗田 哲也（くわた てつや）【JICA 青年海外協力隊】

赴任地：フィリピン共和国 イロイロ州ギンバル町

職種：コミュニティ開発

赴任期間：2017年4月～2018年12月（予定）



こんにちは。本当に早いもので、赴任してから8カ月余りの時間が経ちました。

これを書いているのはクリスマス前なのですが、フィリピンはカトリックの国であるため、クリスマスという文化を非常に大切にしています。

フィリピンのクリスマスシーズンは日本よりも早く、9月頃からショッピングモールではクリスマス用品の販売が始まります。クリスマス前の12月になると、町はイルミネーションで飾られ、クリスマスソングが流れるようになります。町だけではなく、国をあげてのお祭りといった様相です。

さて、今回は私の本来業務とは少し離れた内容について書かせていただこうと思います。

青年海外協力隊フィリピン隊員の中には、本来業務とは別に任意で活動を行う「委員会」というものが存在します。

何種類かあるのですが、年に2回機関紙『たらばほ』を発行する「たらばほ委員会」、マニラの隊員用ドミトリーを管理する「ドミトリー管理委員会」、隊員の古着をリサイクルして再利用や寄付などを行う「古着委員会」など、それぞれの活動を行っています。

その中で、私は「奨学金委員会」という委員会に入っています。

正式名称は「フィリピン青年海外協力隊奨学金委員会 (Philippine JICA volunteer Scholarship Committee)」であり、優秀な成績を収めているにも関わらず経済的な理由で進学が困難なフィリピンの学生に対し、金銭的な支援を行うというものです。

支援費用は日本の企業や活動団体からの寄付によって賄われており、奨学金委員会が管理しています。

各担当委員は定期的に奨学生の家庭にお邪魔して生活状況や成績に変わりがないか確認を行ったり、半年ごとに奨学金を手渡したりするなど、奨学金委員総会で各自経過報告・継続の承認などを行っています。

当奨学金委員会は30年を超える歴史を持っており、一人の隊員がフィリピンの子供達のために何かしたいという強い意思から始まった活動で、現在8名の学生を支援しており、フィリピン各地に元奨学生が点在しています。

私の町にも担当している奨学生が一人います。

現在大学三回生である女の子(20歳)で、非常に真面目で成績も優秀なのですが、経済的な理由から進学が困難な状態でした。

私の前任者時代より支援しており、順調に進学を重ね来年には大学を卒業予定です。

彼女は農業関係の学部に所属しており、酪農技術などの授業や実地訓練を受けていて、将来的には、農業の分野でフィリピン社会に貢献したいという夢も持っています。

成績も優秀で、友人にも恵まれた有意義な学生生活をおくっているようで、逆にこちらが元気を貰うほどです。

あと一年強で卒業ですが、多くのことを学び将来へ大きく羽ばたいてもらえるよう願っています。

このように、各々の担当者が奨学生を見守り、問題なく学生生活を送れるようサポートしています。奨学生は各々の将来のために頑張っていますが、私達の活動がその一助となれることを嬉しく思います。

12月から奨学金委員長に任命されましたので、期待に応えられるよう一層尽力したいと思います。

